

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 4 月 3 日(2025.4.3)

【公開番号】特開 2022-164600(P2022-164600A)
【公開日】令和 4 年 10 月 27 日(2022.10.27)
【年通号数】公開公報(特許)2022-198
【出願番号】特願 2022-64629(P2022-64629)
【国際特許分類】

A 0 1 N 53/06(2006.01)

10

A 0 1 P 7/04(2006.01)

A 0 1 P 7/02(2006.01)

A 0 1 M 1/20(2006.01)

【F I】

A 0 1 N 53/06 1 1 0

A 0 1 P 7/04

A 0 1 P 7/02

A 0 1 M 1/20 A

【手続補正書】

20

【提出日】令和 7 年 3 月 26 日(2025.3.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

___メトフルトリン、トランスフルトリン、及びプロフルトリンからなる群より選択される 1 種又は 2 種以上を有効成分として含有する、室内匍匐害虫防除剤。

30

【請求項 2】

___メトフルトリン及び / 又はトランスフルトリンを有効成分として含有する、室内匍匐害虫防除剤。

【請求項 3】

___防除がノックダウン効果に依拠する、請求項 1 又は 2 に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項 4】

___前記有効成分を 20 ~ 30 w / v % 含有するエアゾール原液と噴射剤とを、0 . 4 m L 定量バルブ及びボタンを備えたエアゾール容器に、前記エアゾール原液と前記噴射剤との容量比率が 3 : 7 ~ 4 : 6 となるように封入した定量噴射型エアゾール剤を調製し、

___閉めきった 2.5 m³ の部屋に室内匍匐害虫を放ち、当該部屋の中央で前記定量噴射型エアゾール剤を 0 . 4 m L ずつ方向を変えながら 4 回噴霧し、30 分間放置した後、当該室内匍匐害虫に対する K T₅₀ 値が 30 分以下である請求項 3 に記載の室内匍匐害虫防除剤

40

【請求項 5】

___防除が致死効果に依拠する、請求項 1 又は 2 に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項 6】

___前記有効成分を 20 ~ 30 w / v % 含有するエアゾール原液と噴射剤とを、0 . 4 m L 定量バルブ及びボタンを備えたエアゾール容器に、前記エアゾール原液と前記噴射剤との容量比率が 3 : 7 ~ 4 : 6 となるように封入した定量噴射型エアゾール剤を調製し、

___閉めきった 2.5 m³ の部屋に室内匍匐害虫を放ち、当該部屋の中央で前記定量噴射型工

50

アゾール剤を 0 . 4 m L ずつ方向を変えながら 4 回噴霧し、 3 0 分間放置した後、当該室内匍匐害虫を別の部屋に移し、 2 4 時間経過後の当該室内匍匐害虫の致死率が 8 0 % 以上である請求項 5 に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項 7】

防除がフラッシング効果に依拠する、請求項 1 又は 2 に記載の室内匍匐害虫防除剤。

【請求項 8】

請求項 3 に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。

【請求項 9】

請求項 5 に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。 10

【請求項 10】

請求項 7 に記載の室内匍匐害虫防除剤を室内匍匐害虫又は室内匍匐害虫の生息場所に施用する、室内匍匐害虫防除方法。

【請求項 11】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項 8 に記載の室内匍匐害虫防除方法。

【請求項 12】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項 9 に記載の室内匍匐害虫防除方法。

【請求項 13】

空間処理により前記室内匍匐害虫を防除する、請求項 10 に記載の室内匍匐害虫防除方法。 20

30

40

50